

4. 海野尾タオル時代

2011年12月、橘屋は、人材確保の困難により黒字経営であったがタオル製造部門を廃業することになった。橘屋は、阿部洋三氏に「タオルづくりは天職だ」とおもわせてくれたタオルメーカーであり、38年の長きにわたる付き合いから阿部氏のタオル人生の舞台を用意してくれたタオルメーカーでもあった。橘屋のタオル製造からの撤退とともに、阿部氏も自らのタオルづくりの歴史に終止符を打とうとおもった。このとき、阿部氏は64歳であった。

海野尾タオルで新たにタオルづくりをスタート

阿部氏は、橘屋退職を機に第一線から退こうと考えていたが、2012年2月に海野尾^{かいののお}タオル（株）に再就職をした。妻の鈴子氏が「元気なのにもう少し働いたら」という一言にも後押しされ、ちょうど海野尾タオルがタオル製織者をハローワークで募集していたから応募してみた。阿部氏は「応募したけれど64歳という年齢もあるから、おそらく雇用はしてくれないだろう」と踏んでいた。しかし、「明日からでも構わんから来てくれ」とすぐさま入社が決まり、海野尾タオルでのタオルづくりが始まった。

海野尾タオルは、タオル専門問屋の林（株）やタオルメーカーの一広（株）などに製品を卸していたが、阿部氏が入社したとき、3代目の海野尾亮介氏立案による100%オリジナルのタオル生産に着手していた。阿部氏は、岩間レンツ RT-500B レピア織機や豊田エアジェット織機を使って、さま



yawn5 重ガーゼタオルケット

ざまなタオルづくりに関わり、とりわけ印象深い製品「yawn5 重ガーゼタオルケット」を開発した。これは、阿部氏が企画から製造まで携わった製品である。サンホーキン糸を使用した5重ガーゼタオルケットで、その特徴は「ふんわりふっくら、そしてさらっとした肌触り」になるように織り上げられている。

その他にもオリジナリティあふれる製品がいくつもある。例えば、「日本の伝統色」は、パイル糸に甘撚り糸を使用し、肌触りや吸水性が良く拭き心地がしっかりとしており、日本の伝統色をリバーシブルでとり入れた色味が特徴である。「yawn片面ガーゼタオル」は、サンホーキン混紡糸を使用し、通常の繊維より毛羽落ちが少ないため洗濯に強いが、ふわふわの感触が特徴的な製品である。「Nora（ノーラ、ノラ）」は、一部素材に銀イオンを保持させた Ag 糸を用いることで除菌力を有したタオル素材の糸を使用し、通常の綿タオルに比べて水分を拡散するので乾きやすく、ニオイの元の菌を除菌するためニオイが気になりにくいところが売りの製品である。「シーウィード」は、オーガニックコットンを使用した優しい肌触りのボリュームのあるタオルで、海藻をイメージさせるデザインが特徴である。



「日本の伝統色」シリーズ



yawn 片面ガーゼタオル



「Nora」シリーズ



「シーウィード」シリーズ

（タオル写真提供：海野尾タオル株式会社）

このように、阿部氏のタオルづくりの技術は海野尾タオルでも生かされ、退職した現在でも阿部氏の手がけたタオルは海野尾タオルの看板商品として販売されている。

海野尾タオル在籍中には、タオルづくりの延長線上で貴重な経験もした。2015年11月、愛媛大学附属高等学校においてタオル製造について講義をおこない、地元の高校生に今治タオル工業について情報発信した。技術者自らが若い世代に直接情報を発信する機会はなかなかないが、産地の人材不足が深刻化するなかでこうした活動は重要である。阿部氏は、講義の最後にこう述べた。「新しい時代をつくるのは青年の熱と力です。みなさんのことです。みなさん、一人ひとりが桜梅桃李の原理で世界に羽ばたいて、自分だけのオンリーワンの花を咲かせてください。」



愛媛大学附属高等学校にて
講義をする阿部氏

阿部氏のタオル人生で現役最後の舞台を用意してくれた海野尾タオルであったが、心筋梗塞を患ったのが原因で体力的な限界を感じ、2020年2月に惜しまれながら同社を退社した。現在は、週2日2～3時間のペースで海野尾タオルの工場に顔を出し、後進の指導にあたっている。

阿部氏のタオル人生は半世紀以上に及び、その長い過程で阿部氏が扱った機械の一覧が表2である。また、その機械と向き合うことで確立した阿部氏のタオル製造における考えがある。それをまとめたのが表3である。

表2 阿部氏が扱ってきたおもな機械一覧

タオル織機	*シャトル織機（手切り織機、シャトルチェンジ、コップチェンジ）
	鈴木織機、遠州織機（SAKAMOTO）、今治織機（世良、田窪、八塚、矢原、村秀など）、豊田自動織機（GLT5、GLT8）
	*スルザーグリッパー織機（タイプ：PU、P7100）
	*レピア織機
	サウラー織機、岩間織機（タイプ：RGT3、RT500、RT500B）
	スルザールーチG6200
	*豊田エアジェット織機（JAT810）
ジャカード機	*機械式
	北織ジャカード、村田ジャカード（MO4、MO5、MO7）、長束ジャカード
	山田ベルドール
	*ダイレクトジャカード
	佐和、タケムラ
	*電子ジャカード
ドビー機	カヤバ電子ジャカード、ストープリ電子ジャカード（CX860、CX870、SX）
	ストープリコントローラ（JC4、JC5、JC7）
ドビー機	*機械式
	山田ドビー、愛知ドビー、ストープリドビー（KR、KR2）
その他	*タケムラエンドレスカードパンチングマシン
	*ドビーフィルムパンチングマシン
	*合糸機、撚糸機（ダブルツイスター）
	*整経機
	田窪整経機、オクイ整経機、オタイ整経機
	*ワインダー（経巻き機）、LPワインダー
	*村田マッハミニ、緯巻き機（石川シュワイター）
	*TODOタイイングマシン
	*マルコウ電気式：大径巻取、ヘムカット機。集塵装置
	*バルダン自動ヘム縫製機
	*スリッター機：青葉式、キタムラ式
	*反振り落とし機
	*三巻ミシン、繋ぎミシン、検針機
	*ビームトラック、ビームストッカー、オーバーレールホイスト
	*コンプレッサー、アトマイザー式噴霧器
	*森田式空調機
	*シャーリング機

表 3 タオル製造における考え

■ 安全第一
■ 基本に徹する
・仕事はまず整理、一切が透きとおるように、そして、先手が打てるようにすること（5S:整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）
・工場全体、機械の掃除、機械の注油
・ネジの緩み（各種ネジの締めるトルクを感覚で覚える）
・機械の異常音は無い
・糸の張力調整
・機械を大事にする
（機械は物を言わないけれど、愛情をもって接すること）
・せめて、5年先、10年先のことを見据えて機械に接する
■ 機械の定期保全
・保全が必要とする個所の、週間目標、月間目標、年間目標の計画を立てて実行し、記録として残す
・人の指先は百分の一の精度があるといわれている（ゴールド・フィンガー）
■ 機械の故障には必ず原因がある
・原因が分かり、修理時に「これくらいいいだろう」と手を抜くと必ず後日しっぺ返しがある
■ いかにして、不良品を出さないようにするか
・チェックリストを作成し、日々チェックする
■ 製造技術もさることながら、職場は人間形成の場である
■ 管理面も大事
・工場全体を俯瞰して改善できる場所は設備関係も含めて経営者と協議して、改善し、より良い製品作りを目指す
・材料、原料を粗末にしない
・無駄、無理、ムラを出来るだけなくして能率的、合理的に仕事に取り組む

出典：阿部洋三氏提出資料より作成。

海野尾タオルを退職したあとも今治タオル技能士会の理事として後進の指導にあたるとともに、今治タオル工業組合において人材育成システムの構築に向けた活動に携わっている。

最近では、今治タオル工業組合が主導する今治タオルアカデミー「技術講座」の創設準備に2020年秋頃より責任者として関わっており、開校後も講師として活動している。今治タオルアカデミーは、産地の技術者養成を目的に開講されるものであるが、産地には、阿部氏も通った現在の愛媛県立愛媛中央産業技術専門校や愛媛県立今治工業高等学校がある。しかし、今治タオルアカデミーでは織機などの機械を自由に分解したり組み立てたり、トライ＆エラーをおこなえる設備をテクスポート今治「タオル工房館」に整えており、既存の訓練校との棲み分けを図っている。

「技術講座」は3つのコースから構成されており、全科目必修（64科目・140.5時間）の「Silverコース」（自らが担当する職種で基本作業ができる）、選択式（52科目・202時間）の「Goldコース」（自らが担当する職種で応用改善・指示作業ができる）、選択式（37科目・215時間）の「Platinumコース」（発展・探求）である。コロナ禍の影響を受けて開講日が延期になっていたが、2022年4月に「Silverコース」が開講した（2023年2月まで開講予定で、原則として火・木・金・土曜日のうち週2日程度）。

タオル職人として数々の表彰を受ける

阿部氏のタオル業界への貢献は、数々の表彰からも窺える。最初は1985年5月、四国タオル工業組合（現・今治タオル工業組合）から、今治タオル工業の振興のために尽力した功績を讃えられて表彰を受けた。阿部氏が38歳のときであった。つぎに、1990年4月に四国タオル技能士研究会より、同研究会の発展向上に寄与したことが評価され表彰を受けた。阿部氏はちょうどこの時期に天津に技術指導に行っていたため、表彰式には出席できなかった。そして、1999年11月に今治商工会議所から、多年にわたり社業発展に貢献したことが認められ表彰を受けた。

阿部氏の評価は市から県に広がり、2002年11月に技能士および技能士会育成功労者として愛媛県技能士会の会長表彰を受けた。2008年10月には当時の四国タオル工業組合が設けた「タオルマイスター制度」のもとで、初代タオルマイスターに認定された（「タオルマイスター制度」については「タオルびと」2019年2月号を参照）。初代タオルマイスターは阿部氏の他に、谷口史郎氏、豊田一也氏、山田克弘氏の3名がいる（谷口氏については「タオルびと」2018年12月号～2019年3月号、豊田氏については「タオルびと」2021年8月号～11月号をそれぞれ参照）。

さらに、阿部氏は、職業訓練の推進や技能検定制度の普及促進に

功労のあった人に授与される愛媛県優秀技能者知事表彰（平成 25 年度）のひとりとして選出され、その授与式が 2013 年 11 月 29 日の愛媛県職業能力開発促進大会（愛媛県、愛媛県職業能力開発協会、愛媛県技能士会の共催）において開催された。優秀技能者では 5 名が選ばれたが、タオル業界では阿部氏ただ一人の表彰であった（愛媛県経済労働部管理局老生雇用課「愛媛労働」第 775 号、2014 年 1 月 15 日、2 頁）。



初代タオルマイスターの認定式の様子

加えて、2014 年 11 月 21 日に愛媛県職業能力開発促進大会（県職業能力開発協会など主催）が開催され、優れた技術や指導力を持つ熟練技能者の「愛媛マイスター」に阿部氏（当時 67 歳）が認定された（愛媛新聞 ONLINE、2014 年 11 月 22 日）。



阿部氏が授与された愛媛マイスター認定証

「愛媛マイスター」は、愛媛県内で各産業界から原則1名の推荐枠で1名の認定になっているが、現在のところ今治タオルの場合は2名認定されており、そのひとりが阿部氏である。厚生労働省の全国レベルでの「現代の名工」に業界から応募し認定されるには、「愛媛マイスター」に認定されていることが必要条件になっている。

こうした表彰は産地の絶大なる支持があってこそのものであり、今治タオル工業における阿部氏の貢献度が窺われる。

（次号につづく）

